



---

2009

(2009年3月期)

---

No. 37

---



株主・投資家の皆様へ

# オリックスについて

## 会社概要 (2009年3月31日現在)

本 社： オリックス株式会社  
〒108-0014 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル

設 立： 1964年4月17日

従業員数（連結）： 18,920名

連結子会社数： 814社

関連会社数： 115社

国内ネットワーク： 1,110拠点

海外ネットワーク： 298拠点（海外26カ国・地域）



## Contents

- | 01 オリックスについて
- | 03 2009年3月期連結決算のご報告（米国会計基準）
- | 04 潮流～環境変化に適応し、ユニークで存在感のある企業を目指す  
一橋大学名誉教授 野中 郁次郎 氏 オリックスグループCEO 宮内 義彦
- | 09 COOインタビュー  
オリックスグループCOO 梁瀬 行雄
- | 11 セグメント情報
- | 13 連結貸借対照表
- | 15 連結損益計算書
- | 17 オリックスREVIEW
- | 19 ネッピー & リブシーのオリックスな1日
- | 21 株主情報

## プロフィール

オリックスは、法人・個人のお客様に付加価値の高い、ユニークな金融商品・サービスをご提供する金融サービスグループです。

現在、日本を含めて世界27ヵ国・地域に拠点を設け、法人金融サービス事業、メンテナンスリース事業、不動産事業、投資銀行事業、リテール事業など多角的に事業を展開しています。

## 企業理念

オリックスは、たえず市場の要請を先取りし、先進的・国際的な金融サービス事業を通じて、新しい価値と環境の創造を目指し、社会に貢献してまいります。

## 経営方針

- オリックスは、お客様の多様な要請に対し、たえず質の高いサービスを提供し、強い信頼関係の確立を目指します。
- オリックスは、連結経営により、すべての経営資源を結集し、経営基盤の強化と持続的な成長を目指します。
- オリックスは、人材の育成と役職員の自己研鑽による資質の向上を通じ、働く喜びと誇りを共感できる風土の醸成を目指します。
- オリックスは、この経営方針の実践を通じて、中長期的な株主価値の増大を目指します。

## 利益配分等に関する方針

- オリックスは、事業活動で得られた利益を主に内部留保として確保することにより、事業基盤の強化や成長のための投資に活用し、財務の健全性を維持しつつ持続的な成長を果たすことが株主価値の増大に繋がると考えています。また、中長期的な利益成長による株主価値の増大に加え、適正な利益配分により株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えています。
- リーマンショック以降の金融環境は、急激な速度で深刻化しています。またその影響は実体経済の悪化へと伝播しており、金融・不動産マーケットの正常化には相当の時間を要するものと考えられます。こうした未曾有の経済環境の混乱期においては、内部留保の充実をより重視することが、中長期的な株主価値の向上に資するものと考えます。
- 前期は株主資本配当率(DOE)2%程度を目安といたしましたが、当面の間は経営の健全性の向上を最優先とした配当方針といたします。

株主通信「悠」はこれまで年4回発行してきましたが、今後2回の発行とさせていただきます。

引き続き、経営方針や事業戦略、財務状況などをよりわかりやすく株主の皆様にお伝えするよう努めてまいりますので、ご理解のほどをよろしくお願いたします。

## 業績ハイライト

(単位: 百万円)	2007年3月期 (2006.4~2007.3)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
営業収益	1,122,450	1,151,539	<b>1,075,811</b>	-7
営業費用	841,385	963,549	<b>1,021,072</b>	6
税引前当期純利益	314,978	248,555	<b>10,071</b>	-96
当期純利益	196,506	169,597	<b>21,924</b>	-87
株主資本	1,194,234	1,267,917	<b>1,167,530</b>	-8
総資産	8,207,187	8,994,970	<b>8,369,736</b>	-7
D/Eレシオ (預金除く) (倍)	4.2	4.6	<b>4.5</b>	
株主資本当期純利益率 (ROE)	18.30%	13.78%	<b>1.80%</b>	
総資本当期純利益率 (ROA)	2.54%	1.97%	<b>0.25%</b>	
株主資本比率	14.55%	14.10%	<b>13.95%</b>	
1株当たり当期純利益 (基本的) (円)	2,177.10	1,860.63	<b>246.59</b>	-87
1株当たり当期純利益 (希薄化後) (円)	2,100.93	1,817.81	<b>233.81</b>	-87
1株当たり株主資本 (円)	13,089.83	14,010.62	<b>13,059.59</b>	-7

## 連結決算の概況

- 1 当期の世界経済は、米国のサブプライムローン問題を発端として、米国証券大手リーマン・ブラザーズなど主要金融機関の破綻や再編が相次ぐなど、世界規模の金融危機に陥りました。また、金融資本市場における信用収縮が顕著となりました。一方、国内も輸出企業の業績不振といった形で実態経済は急速に悪化しています。
- 2 このような事業環境下において、「法人金融サービス事業部門」「メンテナンスリース事業部門」「不動産事業部門」「投資銀行事業部門」「リテール事業部門」「海外事業部門」の6つのセグメントすべてにおいて減益となりました。
- 3 営業収益は、前期比7%減の1兆758億円となりました。「オペレーティング・リース収益」「賃貸不動産売却益」「その他の営業収入」が前期に比べて増加しましたが、「ファイナンス・リース収益」「貸付金および有価証券利息」「有価証券等仲介手数料および売却益」「生命保険料収入および運用益」「不動産販売収入」は減少しました。
- 4 営業費用は、前期比6%増の1兆211億円となりました。「支払利息」「生命保険費用」「不動産販売原価」「販売費および一般管理費」が前期に比べて減少しましたが、「オペレーティング・リース原価」「その他の営業費用」「貸倒引当金繰入額」「長期性資産評価損」「有価証券評価損」は増加しました。営業利益は、前期比71%減の547億円となりました。
- 5 「持分法投資損益」が、前期の483億円の利益から429億円の損失に、「子会社・関連会社株式売却損益」も前期の122億円の利益から17億円の損失になったことなどにより、税引前当期純利益は、前期比96%減の101億円となりました。また、「非継続事業からの損益」は、主に国内の賃貸不動産の売却益が減少したことにより、税効果控除後で前期比48%減の117億円となりました。その結果、当期純利益は、前期比87%減の219億円となりました。

# 潮流



一橋大学名誉教授 野中 郁次郎氏

オリックスグループCEO 宮内 義彦

## 危機を乗り越える「知恵の経営」

**宮内** 当初、当期の1年間は相当厳しくなると予測していましたが、現実には想像以上に深刻な経営環境となりました。

2008年9月15日のリーマンショックと日本国内におけるトヨタショック、この二重のショックを受けた中で、金融サービス業を経営していくことは大変なことだと実感しています。結果として、減損処理を含めてすべてのセグメントで減益となるなど株主の皆様には大変申し訳ない業績になりましたが、長年経営に携わってきた、こうした経験は初めてでした。

**野中** パーチャルな経済と実体経済の乖離を是正することの揺り戻しがこれほど急激に来るということは予測不可能だったと思います。特に金融の世界では変化は瞬時に起こります。そうした状況の中でオリックスが黒字を確保したということは大変な努力の結果だと感じます。

**宮内** 業績が低迷した原因は大きく3つあるのですが、1つめは金融不安の影響を受けて経済全般が低迷したこと、2つめは取引先の経営不振の影響で貸倒引当金が増加したこと、3つめは投資先の業績悪化や株価の急落で保有株式の評価損を計上しなければならなかったことです。そのために当期純利益は前期比87%の減益となったわけですが、219億円の当期純利益を確保したことで、かろうじて最低ラインは守れたのではないかと考えています。

**野中** 一般論的な「唯一最善の経営」というものは存在しないと思うのです。危機を乗り越えていくために必要なのは、刻々と変化する状況の中で、最適な判断を下す能力、つまり「知恵」ですね。その知恵がオリックスの中に埋め込まれてあったからこそ黒字を確保できたのだろうと私は捉えています。

MBA的な分析経営を超えた「知恵の経営」

**野中 郁次郎氏** (のなか いくじろう) 一橋大学名誉教授  
ナレッジマネジメント(知識経営)の第一人者

1935年5月、東京都生まれ。1958年、早稲田大学政治経済学部を卒業後、富士電機製造勤務ののち、カリフォルニア大学経営大学院(パークレー校)でPh.D取得。南山大学、防衛大学校、一橋大学、北陸先端科学技術大学院大学などを経て現職。現在富士通や三井物産、セブン&アイ・ホールディングスの社外取締役も務める。『失敗の本質』、『知識創造企業』、『戦略の本質』、『イノベーションの作法』など著書多数。

## PROFILE

は、日々の錬磨の中から生まれてくるものです。リーダーの先見性プラス日々蓄積された実践知を組織がどのように共有化できているか、それが今回改めて問われたのではないのでしょうか。

## 経済と社会の共通善の実現

**宮内** 今回の激変を経験して印象に残ったのは、非常に意欲に富んだ積極的な経営をしている企業が大きな打撃を受けていることです。バブル崩壊の時も同様の感想を持ちましたが、そうであるなら「経営とはいったい何だろうか」と改めて考えざるを得ません。

経済を活性化させる積極的な経営をしている会社が伸びていくような市場づくり、あるいは枠組みづくりが必要ではないのでしょうか。

**野中** 確かに金融資本主義に走りすぎたというシステムの問題がありますね。経済システムの中にバランスを取る仕掛けをどう組み込むかという問題が浮上しました。

それと同時に、リーダーにもある種のバランス能力というのか、自分自身をより上位の視点から客観視する能力が求められていると思います。



経済と社会のコモングッド（共通善）をどう実現していくかという課題と、組織のリーダーの在り方、その両立が必要だと痛感しました。

**宮内** 社会システムを組み替えることによって共通善を実現していくのか、あるいは教養豊かな経営者に期待するのか。どちらが重要だとお考えですか。

**野中** それは同等だと思います。最近、米国のマネジメント誌である『ハーバードビジネスレビュー』に未来の経営はどうあるべきかというテーマで、経営コンサルタントや経営者、学者が行った25項目の提言を掲載しています。その上位に来ているのは、社会的な意義のある目標をつくろうとか、マネジメントの中にコミュニティや市民性、教養を取り込もうとか、そういった提案なんですね。

この25の提言に加えて、四半期ベースではなく、もう少し中長期の経営ができるような評価制度の改変などのシステムの変革を同時に行えば、社会にも力が出てきます。

**宮内** 私を含めて当社の経営陣は、3年から5年という中長期的視点で企業経営を捉えています。中長期的にもっと社会的に意味のある会社に成長させたい、その結果として利益も増大すると考えています。日々の株式のパフォーマンスではなく、中長期戦略や企業理念を株主の皆様にも理解していただきたいと思っているのですが、現実としてはなかなか難しい。

**野中** 株主も優れた経営者が何物にも代え難いということは認識しているし、経営者の声に耳を傾けようとしていると思うのです。ですから経営者側にも、場合によっては短期的な利益は獲得できないかもしれないけれど、中長期的には企業理念の追求が利益につながるというメッセージを粘り強く発信していく努力が必要でしょうね。

言ってみればリーダーの言語能力というので

しょうか。経営者が自分の理念について株主を始めとするステークホルダー（利害関係者）にどれだけの確に伝達していけるかどうか、経営者に求められる課題の1つであると思います。

## ソリューション・プロバイダーへの進化

**宮内** 野中先生からご覧になって、オリックスはどのような企業グループだとお感じになっていますか。

**野中** オリックスが生み出してきたコンピタンスという組織の能力に非常に大きな興味を感じています。

原点はリースですけれど、それだけではお客様への価値提供が限られます。ところがオリックスは生命保険や証券、投資信託などさまざまな金融商品や関連サービスを手掛けるようになってきました。リースを核として連鎖的に関係性を広げていく能力、つまり孤立した「モノ」だけではなく「コト」を提供していくということ、それこそまさに「知恵」だと私は考えるわけです。

オリックスはそういう関係性の中でお客様に価値を提供し続けてきた会社だと思いますし、それが他の日本企業と最も違う点ではないでしょうか。

**宮内** おっしゃる通り、お客様から評価していただくと思ったら、金融商品という「モノ」ではなく「リレーション（関係性）」を構築しなければならないと思います。

これまでは多様な金融商品を組み合わせ、お客様に提案するクロスセルという形でリレーションを作り上げてきましたが、今後もっと重要なことは、「モノ」がなくてもリレーションが保てるという意味で、お客様と一緒に考える立場、ソリューション・プロバイダーとでもいうのでしょうか、そうありたいと思っています。たとえば、お客様には中堅・中小企業が多いのですが、財務的な問題が起きたらオリックスに相談しようと言っていただけになれば競争力は格段に増します。



単なる金融商品とソリューション・プロバイダーの両方、「モノ」と「知恵」と言ってもいいですが、その両立が求められています。理想かもしれませんが、そうすることで範囲が広がり、その広がりから新しいリレーションができてくるんですね。そうした新しいリレーションへその他の「モノ」と「知恵」とを持っていくということができるのであれば会社というのは成長し続けるのではと思っています。

**野中** 私の言葉で言うと「コトづくり」ですね。単なる「モノ」の組み合わせではなく、そこにソリューションをつけて、より大きな関係性の中で価値を提供していくということですね。

**宮内** 一例としては、オリックスには環境とエネルギーをミッションとするチームがあって、電力の小売もしています。全国の当社のお客様から必要とされ、社会のニーズを満たす事業の良い例なのですが、こういった事業から、リースを含めた他のビジネスへの広がりも出てくると思うのです。

**野中** オリックスがソリューション・プロバイダーへと進化していることと、原点がリース事業であったことに関連はあるのでしょうか。

**宮内** リースというのは、契約面から見ると機械の賃貸借ですが、実質は金融機能なんですね。そのため、機械を貸している会社として見られる場合もあれば、新しい金融サービスを提供している会社として見られる場合もありました。そのような与信判断や金融の専門性と「モノ」を取り扱う専門性の双方を多角化していったというのがオリックスの歴史でもあるわけです。そういう意味で、リース業という、1964年設立当時の日本ではどの産業にも属さないユニークな業態から始まったということは、ある意味で幸運だったかもしれません。

**野中** リース業というのは、単なる金融的な知識だけでは難しい仕事なのですね。

**宮内** 非常に高い専門性を持った人間がいないと動かない仕事ですね。そういう専門家集団をどのようにマネジメントするかがトップとして重要になります。また人材についても、自社で数十年仕事をしてきた人間だけでは不十分なので、感性豊かな外部の人間を多数採用してきました。

やはり知の坩堝（るつぼ）のような状態でないといけないと新しい価値は生まれないと考えていますので、人材戦略も様々なバックグラウンドを持った人材を登用する「Keep Mixed」という精神を心がけています。

**野中** それは興味深い発想ですね。やはり知識社会における企業というのは、さまざまな知恵をミックスしながら新しい関係性を創造し、お客様に価値を提供し続けるということですから。

## 能動的に動く

**野中** 今後の金融の在り方を考えると、究極は人類普遍の価値の追求にあるのではないかと思います。分析力を駆使しながら、実践知を融合し、コモングッドに向けて進んでいく。それがいま企業に求められているという気がします。

そこで重要になるのが、日本だけでなく世界の知恵を関係づけていくことでしょう。私の

知っている範囲では、オリックスはグローバルな事業を展開しながら、一方で現地の人材を積極的に登用するなど、グローカリゼーション（グローバル化+ローカリゼーション）を進めています。こうしたグローバルとローカルの融合を通じて、世界に通用する金融の在り方を構築できるのだと考えています。

**宮内** 企業にとって一番重要なことは、社会にいかに関与していくかだと思います。現在の経済情勢では、会社の安定性、堅実性を守りきる時期だと捉えています。そして、ここ1~2年は石橋を叩いた上で次のステップを考えるために手堅く半身の構えのような状況だと思いますが、中長期的に見た場合は、社会に役立つ会社に年々育っていくことが重要だと考えています。

ただ、社会に貢献するために何をするかという点は、金融業界のみならず世の中は激動していますのであらかじめ決めることはできません。企業というのは継続することを前提にしていますから常に途中経過であって、それは今日現在も10年後も変わらないわけで、常に柔軟性のある経営姿勢を維持していくことが大切です。

**野中** まったく同感です。私が最近関心を持っているのは実践知というコンセプトなんですね。それは何かというと、コモングッドはあるけれども、そこに到達するプロセスは分からない。だから、今ここ、この状況、この文脈、この関係性の中で最善の判断を下し、それが間違っていたら迅速に修正していくということなんです。そういう判断力を組織の中に組み込むことは企業が発展していく上で不可欠ではないでしょうか。

そして、絶えず動いている現実の中で最善の判断を下すためには、質の高い経験、中でも失敗の経験が重要だと考えているわけです。

**宮内** オリックスの場合は成功よりも失敗の方がはるかに多いですね。成功率はイチローに遠く及ばない（笑）。ただ重要なことは、失敗は小さい



芽で止める、成功は花を開かせるということです。失敗を怖れずに能動的に動くという行為なしには企業は伸びないと思いますし、それを支えるだけの経営資源も必要です。失敗を許さないというのはマネジメントではありません。

**野中** その考えには共感しますね。私もいろいろと模索して、最後に行き着いたのが、アクションと分析は別々ではなく、動きながら考え抜くということなんです。

オリックスという会社が普通の金融業と異なるのもそこではないかと思えますね。リースを原点としながら絶えず現場の中に入り込み、ニッチを追求しながらやってきたDNAというのは、能動的に動きながら考えるということと深く関わっているのではないのでしょうか。だからオリックスが単なる普通の金融会社になったら、たぶん面白みがなくなるでしょう。

**宮内** 私も能動的に動くということがオリックスのDNAであり続けてほしいと思うのですが、突然変異が起こるかもしれません(笑)。企業においてはDNAをきっちり埋め込んで、それで大丈夫だということはないので、企業や経営環境が変化の中で、常に原点に立ち返ることが大切ですね。

**野中** 「能動的に動く」というのはいい言葉ですね。危機の時代だからこそ、動かないと何も生まれ

ないし、変化を察知するのは動きがあるからこそです。

また、これからのリーダーに求められるのは、ビジョンに向かって困難を乗り越えていくという「物語」を世界に発信できる能力でしょうね。日々の錬磨によって次々に出てくる課題を1つひとつ判断し、解決しながら大きなビジョン、理想を紡いでいく。それを持続するためには、理想がどこかで収益につながるようなしたたかさをビジネスモデルの中にも持っていることが必要でしょう。

オリックスはビジョンと収益性のバランスを高次元で達成した希有な企業グループだと思います。そのバランス能力が、マネジメントと社員の間で共有されている。そこにオリックスのしなやかさ、したたかさがあるのだと考えています。今後もオリックスの動向に注目していきたいと思います。

**宮内** 野中先生がおっしゃった実践知や知恵の経営などは、まさにそうあってほしいという理想形で、自己採点するとあまりいい点はつけられません。まだまだやらなくていけないことはたくさんあります。

オリックスにしかできない、またオリックスだからできる環境の変化への適応を通して、さらにユニークで存在感のある企業になりたいと思っています。

## 2009年3月期の業績総括および2010年3月期の経営方針について

2008年9月のリーマン・ショック後に発生した世界的な金融資本市場のパニック、ならびに経済不況の影響は予想を超えたものであり、負債のリスクコントロールが喫緊の課題となりました。当期は必要と判断した施策を迅速に打ち出して実行したことにより、組織横断的な重点課題をクリアすることができました。

今後は、引き続きリスク管理を強化するとともに、当期の成果をさらに積み上げることにより危機対応策を完了させ、次のステップとして、2011年以降の収益拡大に向けた施策を進めていく考えです。



オリックスグループCOO 梁瀬 行雄

2009年3月期（当期）の業績に関する総括、および2010年3月期の経営方針についてご説明ください。

当期を総括しますと、上半期と下半期で事業環境は極端に変化しました。その影響を強く受けたことにより、オリックスの業績は下半期から急激に悪化しました。9月15日のリーマン・ショック以降、金融の危機、信用収縮、景気後退などによってもたらされた、さまざまな経営的課題に、オリックスは全組織を挙げて正面から対峙し、1つひとつの課題をクリアしてきた1年であったと言えます。この間、リスク管理を強化し、リスクの極小化に努めましたが、コントロールの困難な市場性資産に対する多額の評価損を計上したことなどにより、当期純利益は前期比87%減の219億円という結果になりました。約9割に及ぶ大幅減益となりましたが、このような経済状況のなかで、219億円の利益を計上し、世界的危機の震源地である米州での事業も黒字を確保することができたことは特筆すべきことだと思っています。

非常に厳しい1年ではありましたが、オリックスの組織全体に危機対応意識が浸透し、迅速な行動が取れるようになった点や、財務の健全化および不動産リスクの管理強化において着実な成果が上がったことなど、得たものも多かったと実感しています。

そして何よりも当期にリスクを相応に限定させることができ、損失を確定させたことで、2010年3月期の後半からはさまざまな事業の可能性を追求し、2011年3月期以降の本格的な回復の第一ステップとして、手が打てる状態になったと評価しています。

#### オリックスの経営方針 (2009年3月期~2010年3月期)

##### 基本方針

>>> 世界的な経済の減速と信用収縮に適合し得る  
経営の健全性の向上

##### 基本施策

>>> 「企業体質の強化」と「事業の再構築」

- ① 財務の安定性
- ② 投資先企業のモニタリング強化
- ③ 不動産のリスク管理強化
- ④ 事業の再構築

#### グループCOOに就任されて2年目の抱負をお聞かせください。

現在、金融資本市場や経済活動には危機的な状況から正常化への方向感が少しずつ見えてきました。2010年3月期の経営環境は当期に比較すれば良化されて、恐らく下半期には改善がより明確になるものと期待しています。もちろん、今はまだ経済危機を脱していない状態にあり、道程は必ずしも平坦ではないと想定しています。

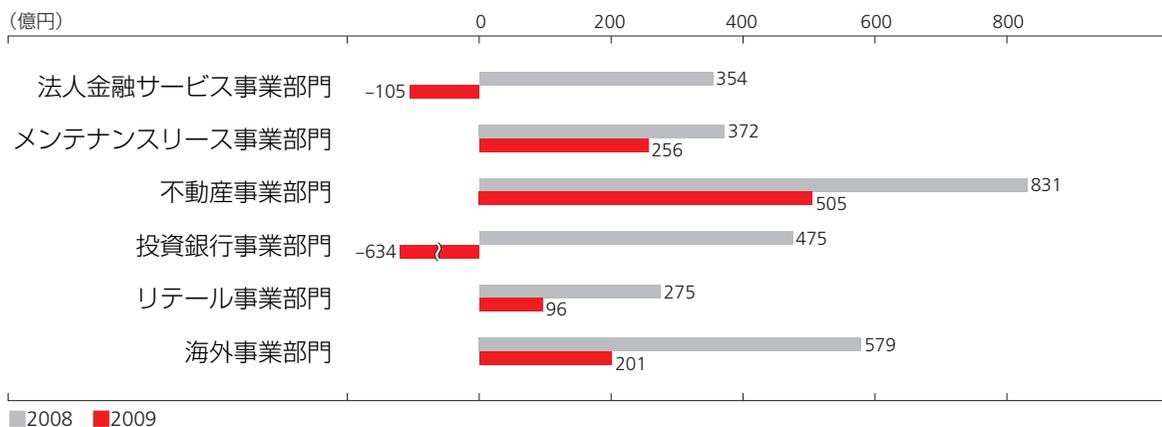
このような環境認識のもと、2010年3月期は経営の方向性として次の2つのことを進めていきます。1つは引き続きリスク管理の強化を実施し、これまでの成果をさらに積み上げることにより、危機対応策を完了させることです。

そしてもう1つは、2011年以降の収益拡大に向けた施策を進めることです。すでに社内体制は、①組織の若返り、②従前と異なる経営環境に適した組織、を狙いとしてほぼ全組織体制を刷新しました。金融・経済危機と対峙し、さまざまな対策を実施してきた1年余りの時間のなかで、オリックスには営業環境が不調であっても凌いでいける対応能力が身に付きつつあります。また、不動産ファイナンスや不動産開発の分野においては、プレーヤーの撤退や破綻が相次いだために市場における存在感がより大きくなっています。

今後は、国内外の大きな流れに乗って以下の事業に取り組んでいきたいと考えています。具体策としては、①金融機関の再編や投融資の新しい仕組みが創られていく過程でのオリックス、金融機関双方の強みを活かす共同事業の推進、②信用収縮が続くなかで、信用力の高い顧客に対するグループの総合的サービス機能提供によるアプローチの強化、③中長期的に高い成長が期待されるアジアにおいて、これまで築いてきたオリックスのプレゼンスの再評価と多面的な事業展開、④環境ビジネスの強化などです。



## セグメント利益の推移



\* 本社部門の費用などが含まれていないため、セグメントの利益合計額は連結財務諸表の税引前当期純利益と一致しません。

## セグメント業績の概要

### 法人金融サービス事業部門

**【主な事業内容】** 融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス

#### 【セグメント利益増減の理由】

前期の後半より取り巻く環境が大きく変化しており、今後も引き続き厳しい状況が続くと考えています。

不動産業向け貸付金に対する貸倒引当金繰入額が継続的に発生したことや、連結子会社の営業権および持分法適用関連会社の評価損を計上したことなどにより、前期354億円の利益から105億円の損失となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	139,874	137,712	-2
▶セグメント利益	35,412	△10,451	-
セグメント資産	1,993,390	1,583,571	-21

### メンテナンスリース事業部門

**【主な事業内容】** 自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器等のレンタルおよびリース

#### 【セグメント利益増減の理由】

景気の悪化や消費マインドの縮小に加え、当下半年以降の自動車市場の縮小など厳しい事業環境の影響を受けています。

減価償却費、メンテナンス・サービス関連費用および貸倒引当金繰入額の増加に加え、中古車価格の下落による売却益の減少などにより、前期比31%減の256億円になりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	236,411	235,953	-0
▶セグメント利益	37,235	25,621	-31
セグメント資産	649,814	648,314	-0

\* オリックスは、組織を一部変更し新体制で経営を執行していくこととなり、これに合わせて2008年4月1日より戦略の策定、経営資源の配分、ポートフォリオバランスの決定を行うセグメントを、法人金融サービス、メンテナンスリース、不動産、投資銀行、リテール、海外の6つに変更しています。なお、当期の表示に合わせ過年度を組替再表示しています。

## 不動産事業部門

**【主な事業内容】** オフィスビル・商業施設等の開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所等の運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問

### 【セグメント利益増減の理由】

金融危機の影響により日本の不動産市況も悪化し、賃貸不動産の売却益は、当下半期において大きく減少しました。また、マンション分譲事業においても、開発中物件の評価損の計上や収益性の低下により利益は大きく減少しました。この結果、前期比39%減の505億円となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	288,795	270,027	-6
▶セグメント利益	83,065	50,508	-39
セグメント資産	1,077,560	1,175,437	9

## 投資銀行事業部門

**【主な事業内容】** 不動産ファイナンス、商業用不動産担保ローンの証券化、サービサー（債権回収）、プリンシパルインベストメント、M&Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル

### 【セグメント利益増減の理由】

不動産ファイナンス事業は新規取引の実行を選別しているため、営業貸付金残高および収益は減少しています。さらに、信用収縮の影響を受けた貸倒引当金繰入額の増加に加え、大京・富士火災に対する大幅な評価損の計上などにより、前期の475億円の利益から634億円の損失となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	127,199	94,645	-26
▶セグメント利益	47,483	△63,397	-
セグメント資産	1,698,452	1,321,491	-22

## リテール事業部門

**【主な事業内容】** 信託銀行、カードローン、生命保険、証券

### 【セグメント利益増減の理由】

カードローン事業で前期と同水準の利益を維持したものの、信託銀行業において、事業拡大による販売管理費や貸倒引当金繰入額の増加により利益が減少しました。また、生命保険事業における運用益減少や貸倒引当金繰入額の増加、証券事業における証券仲介手数料の減少により、前期比65%減の96億円となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	198,858	183,307	-8
▶セグメント利益	27,463	9,573	-65
セグメント資産	1,450,241	1,554,006	7

## 海外事業部門

**【主な事業内容】** リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連事業、船舶・航空機関連事業

### 【セグメント利益増減の理由】

米州における債券・株式市場の悪化に伴う有価証券投資の損失拡大、市場金利の低下ならびに円高の影響などによる貸付金収益の減少に加え、アジア地域において前期の利益に大きく寄与した大韓生命の売却に伴い持分法投資利益が減少したことなどにより、前期比65%減の201億円となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)	前期比 (%)
セグメント収益	218,227	167,635	-23
▶セグメント利益	57,862	20,066	-65
セグメント資産	1,037,311	949,852	-8

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2008年3月期 (2008.3.31)	2009年3月期 (2009.3.31)
<b>資産の部</b>		
現金および現金等価物	320,655	<b>459,969</b>
使途制限付現金	143,883	<b>128,056</b>
定期預金	511	<b>680</b>
① ファイナンス・リース投資	1,098,128	<b>914,444</b>
② 営業貸付金	3,766,310	<b>3,304,101</b>
貸倒引当金	△102,007	△ <b>158,544</b>
③ オペレーティング・リース投資	1,019,956	<b>1,226,624</b>
④ 投資有価証券	1,121,784	<b>926,140</b>
その他営業資産	197,295	<b>189,560</b>
関連会社投資*	327,763	<b>264,695</b>
その他受取債権	284,286	<b>228,581</b>
棚卸資産	232,850	<b>197,960</b>
前払費用	47,657	<b>34,571</b>
社用資産	89,533	<b>86,945</b>
その他資産	446,366	<b>565,954</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,994,970</b>	<b>8,369,736</b>

\* 2009年3月31日現在、米国財務会計基準書第159号に基づき公正価値評価した10,245百万円を含んでいます。

## ① ファイナンス・リース投資

ファイナンス・リース投資残高は、前期末比17%減の9,144億円となりました。

国内では、リース業界全体での新規実行高の減少や自動車リースにおいてオペレーティング・リース取引が選好されていることから、前期末比15%の減少となりました。

海外では、米州でのリース事業の縮小、アジアでの新規取引の抑制などから、同21%の減少となりました。

## ② 営業貸付金

営業貸付金残高は、前期末比12%減の3兆3,041億円となりました。

昨今の先行き不透明な経営環境から、法人金融サービス事業、投資銀行事業および米州における法人向け融資の新規取引を慎重に取り組む方針をとっています。その結果、国内では前期末比13%の減少、海外でも同6%の減少となりました。

## ③ オペレーティング・リース投資

オペレーティング・リース投資残高は、前期末比20%増の1兆2,266億円となりました。

国内では、賃貸不動産の取得や自動車リース事業における需要増加により資産が伸長したことから前期末比28%の増加となりました。

海外では、自動車リースなどの新規案件の抑制や円高の影響などにより、同18%の減少となりました。

(単位：百万円)	2008年3月期 (2008.3.31)	2009年3月期 (2009.3.31)
<b>負債および資本の部</b>		
⑤ 短期借入債務	1,330,147	<b>798,167</b>
⑥ 預金	470,683	<b>667,627</b>
支払手形および未払金等	392,346	<b>370,310</b>
未払費用	112,461	<b>96,662</b>
保険契約債務	486,379	<b>442,884</b>
未払法人税等	267,692	<b>160,358</b>
受入保証金	163,872	<b>168,890</b>
⑤ 長期借入債務	4,462,187	<b>4,453,845</b>
<b>負債合計</b>	<b>7,685,767</b>	<b>7,158,743</b>
<b>少数株主持分</b>	41,286	<b>43,463</b>
<b>契約債務および偶発債務</b>		
資本金	102,107	<b>102,216</b>
授權株式数	259,000,000株	
発行済株式数	92,193,067株 (2008年3月31日現在)	
	92,217,067株 (2009年3月31日現在)	
資本剰余金	135,159	<b>136,313</b>
利益剰余金		
利益準備金	2,220	—
その他の利益剰余金	1,081,219	<b>1,071,919</b>
その他の包括利益累計額	△19,295	<b>△92,384</b>
自己株式 (取得価額)	△33,493	<b>△50,534</b>
	1,696,204株 (2008年3月31日現在)	
	2,816,847株 (2009年3月31日現在)	
<b>資本合計</b>	<b>1,267,917</b>	<b>1,167,530</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>8,994,970</b>	<b>8,369,736</b>

#### ④ 投資有価証券

投資有価証券残高は、前期末比17%減の9,261億円となりました。

国内では、主に商業用不動産を担保とした特定社債の残高が減少したこと、また、国内証券市場の混乱に伴う未実現評価益の減少や評価損の計上により、前期末比20%の減少となりました。

海外では、円高の影響があったものの、米州のディストレス投資の増加により、同13%の増加となりました。

#### ⑤ 長短借入債務

当期は世界的な信用収縮に適合するため、財務の流動性確保に努めました。具体的には資本市場が十分機能していない環境下、CPの残高を抑制しています。これにより、負債の長期比率も85%まで改善しました。

#### ⑥ 預金

オリックス信託銀行では事業拡大のための預金を拡大させており、前期末比42%の増加となりました。

# 連結損益計算書

(単位：百万円)	2007年3月期 (2006.4~2007.3)	2008年3月期 (2007.4~2008.3)	2009年3月期 (2008.4~2009.3)
<b>営業収益</b>	1,122,450	1,151,539	<b>1,075,811</b>
① ファイナンス・リース収益	90,272	78,548	<b>63,766</b>
② オペレーティング・リース収益	249,091	288,360	<b>291,352</b>
③ 貸付金および有価証券利息	201,531	227,020	<b>196,601</b>
④ 有価証券等仲介手数料および売却益	70,684	23,521	<b>△12,330</b>
⑤ 生命保険料収入および運用益	132,835	128,616	<b>117,751</b>
⑥ 不動産販売収入	87,178	88,445	<b>71,088</b>
⑦ 賃貸不動産売却益	22,958	16,756	<b>24,346</b>
⑧ その他の営業収入	267,901	300,273	<b>323,237</b>
<b>営業費用</b>	841,385	963,549	<b>1,021,072</b>
支払利息	80,737	105,905	<b>104,541</b>
オペレーティング・リース原価	161,114	184,313	<b>197,401</b>
生命保険費用	115,565	112,869	<b>105,899</b>
不動産販売原価	73,999	81,056	<b>79,060</b>
その他の営業費用	140,597	170,476	<b>186,531</b>
⑨ 販売費および一般管理費	248,482	265,759	<b>249,505</b>
⑩ 貸倒引当金繰入額	13,805	33,226	<b>77,028</b>
長期性資産評価損	1,027	1,742	<b>3,782</b>
有価証券評価損	5,592	8,290	<b>18,632</b>
為替差損	467	△87	<b>△1,307</b>
<b>営業利益</b>	281,065	187,990	<b>54,739</b>
⑪ 持分法投資損益	31,951	48,343	<b>△42,937</b>
⑫ 子会社・関連会社株式売却損益および清算損	1,962	12,222	<b>△1,731</b>
<b>税引前当期純利益</b>	314,978	248,555	<b>10,071</b>
<b>法人税等</b>	125,759	98,487	<b>△1,990</b>
<b>少数株主利益前当期純利益</b>	189,219	150,068	<b>12,061</b>
<b>少数株主利益</b>	4,844	3,918	<b>1,873</b>
<b>継続事業からの利益</b>	184,375	146,150	<b>10,188</b>
<b>非継続事業からの損益</b>			
非継続事業からの損益	19,081	37,642	<b>19,847</b>
法人税等	△7,523	△15,128	<b>△8,111</b>
非継続事業からの損益（税効果控除後）	11,558	22,514	<b>11,736</b>
<b>異常損益項目（税効果控除後）—関連会社取得時利益</b>	573	933	<b>—</b>
<b>当期純利益</b>	196,506	169,597	<b>21,924</b>

## ① ファイナンス・リース収益

国内では、リース業界全体での新規実行高の減少に加え、リスク・リターンに見合った資産に投資する方針を継続しているため、減少傾向です。また、自動車リースの分野では、オペレーティング・リースが選好される傾向が強くなっており、ファイナンス・リース資産の減少が続いていることから前期比22%減少しています。海外では、主に米州における継続的なリース事業の縮小に伴うファイナンス・リース資産の減少に加え、円高の影響を受けたことなどにより、前期比13%の減少。この結果、全体としては前期比19%減の638億円となりました。

## 〈主な商品・サービス〉

- 情報関連機器・設備機械・自動車などのリースおよび割賦

## ② オペレーティング・リース収益

国内では、賃貸不動産の取得や自動車事業における需要増加による資産の伸長から前期比5%の増加。海外では、航空機の売却益の減少や自動車リースの新規実行高の減少、円高の影響などにより前期比11%の減少となりました。この結果、全体としては前期並みの2,914億円となりました。

- 測定機器・情報関連機器レンタル
- 自動車リース・レンタカー
- 航空機・船舶リース
- オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸事業

### 3 貸付金および有価証券利息

国内では、法人向け融資での新規取引の抑制に伴う営業貸付金の減少、サービス（債権回収）事業の収益の減少などにより前期比12%の減少。海外では、主に金利の低下に加え、新規取引の抑制に伴う新規実行高の減少、円高の影響などにより前期比19%の減少。この結果、全体としては前期比13%減の1,966億円となりました。

#### 〈主な商品・サービス〉

- 法人向け融資
- 個人向けカードローン
- 個人向け住宅ローン

### 4 有価証券等仲介手数料および売却益

有価証券等仲介手数料は、金融市場の混乱による取引の減少に伴い証券事業からの収益が減少したことにより、前期比27%の減少。有価証券売却益は、米州における債券・株式市場の悪化による損失やプライベートエクイティファンドからの損失により、221億円の損失。受取配当金は、主に不動産投資目的の特定目的会社からの分配金により、前期比42%の増加。この結果、全体としては前期の235億円の利益から123億円の損失となりました。

- 有価証券売買
- 株式売買仲介

### 5 生命保険料収入および運用益

生命保険事業における保険料収入の減少、また市況の悪化に伴い有価証券からの運用益も減少した結果、全体としては前期比8%減の1,178億円となりました。

- 生命保険

### 6 不動産販売収入

前期に大洋州地域における不動産売却があったこと、および国内におけるマンション販売収入の減少などにより、前期比20%減の711億円になりました。なお、共同事業体のマンションの販売収入は、販売原価と相殺した後「持分法投資損益」に含めています。

- マンション・  
一戸建て住宅の分譲

### 7 賃貸不動産売却益

非継続事業に該当しないオフィスビルなどの売却益が増加したことにより、前期比45%増の243億円となりました。

- オフィスビル・  
商業施設などの売却

### 8 その他の営業収入

国内では、前期に取得した連結子会社が期首から貢献したことに加え、ゴルフ場・研修所などの不動産運営事業の収益が増加したことから前期比15%の増加。海外では、米州におけるアドバイザー業務やアジア地域における船舶関連の収益が減少したことや円高の影響などにより、前期比18%の減少。この結果、全体としては前期比8%増の3,232億円となりました。

- 自動車メンテナンスサービス
- 企業再生ビジネス
- M&Aアドバイザー手数料収入
- ビルメンテナンス
- サービシング手数料

### 9 販売費および一般管理費

従業員給与およびその他の人件費が販売費および一般管理費のおよそ6割を占め、残りは事務所賃貸料、通信費、旅費交通費等です。

前期中に取得した連結子会社の費用が期首から計上されましたが、前期の第一四半期に無形資産の一時償却費が計上されていたため、前期比では6%減の2,495億円となりました。

### 10 貸倒引当金繰入額

貸倒引当金繰入額は、前期に比べ132%増の770億円になりました。このうち、ファイナンス・リース投資に対する貸倒引当金繰入額は前期比7%増の95億円になりました。

また、営業貸付金に対する貸倒引当金繰入額は、主に不動産業向けが増加したことに伴い前期に比べ177%増の675億円になりました。

### 11 持分法投資損益

大京および富士火災海上保険の業績悪化に伴う持分法投資損失や株価下落に伴う関連会社投資に対する評価損の計上により、前期の483億円の利益から429億円の損失となりました。

### 12 子会社・関連会社株式売却損益および清算損

国内においてオリックス・ファシリティーズの売却益の計上があったものの、富士火災の第三者割当増資による持分比率の低下に伴うみなし売却損を計上したことにより、前期の122億円の利益から17億円の損失となりました。

## 「悠」オリックスの1年（新聞掲載された記事とリリースより事業活動を紹介）

第1四半期	2008年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「自主参加型国内排出量取引制度」の取引参加者として排出枠取引を開始（オリックス環境）</li> <li>●『オリックスFX』取引コストを大幅に引き下げ（オリックス証券）</li> <li>●女性専用『医療保険 CURE Lady（キュア・レディ）』新発売（オリックス生命）</li> <li>●大阪・再開発事業“ほたるまち”の商業施設名称を「堂島クロスウォーク」に決定（オリックス不動産）</li> </ul>
	2008年5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JCBと企業間決済サービスで提携（オリックス）</li> <li>●Moody'sによる格付け引き上げ（オリックス）</li> <li>●不動産私募ファンドビジネスを本格展開（オリックス不動産投資顧問）</li> <li>●無担保借換専用ローン『バンクプレミア』の取り扱い開始（オリックス信託銀行）</li> </ul>
	2008年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ジャパンネクストPTS」への接続開始、約4,000銘柄の夜間取引が可能に（オリックス証券）</li> <li>●JCBと中小事業者向けローン専用カード「JCB Businessloan」で提携（オリックス・クレジット）</li> <li>●日産の人気車種新型「GT-R」のレンタルを開始（オリックス自動車）</li> <li>●重要文書処理システム『ECOBx警備輸送便』を開始（オリックス環境）</li> </ul>
第2四半期	2008年7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個人向けカーリース新商品『いまのりセブン』の発売を開始（オリックス自動車）</li> <li>●「沖縄サンゴ礁再生プロジェクト」を開始（オリックス不動産）</li> <li>●「中国科学院」のPEファンドに出資（オリックス）</li> <li>●マレーシアの格安ホテルTune Hotels.Comへ資本参加（オリックス）</li> </ul>
	2008年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法人の顧客向け、新サービス車両管理情報提供サービス『m-ERG』を開始（オリックス自動車）</li> <li>●全国13行の地方銀行と包括提携（オリックス）</li> <li>●杉乃井リゾートの全株式を取得（オリックス不動産）</li> <li>●インターネットでの債権取引サービスを開始（オリックス証券）</li> </ul>
	2008年9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NXCO東日本と情報連携（オリックス自動車）</li> <li>●<b>老人ホーム併設型シニアレジデンス「芝浦アイランド」に誕生（オリックス・リビング）</b></li> <li>●エコドライブを意識したカーシェアリング車載システムを開発（オリックス自動車、ユビテック）</li> <li>●NHK技研と映像コンテンツ記述言語の開発に関する共同研究を開始（インターネット総合研究所（IRI））</li> </ul>
第3四半期	2008年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JCBとUAEのMAFグループの提携に協力、中東ドバイに合併カード会社「MAF JCB」を設立（オリックス）</li> <li>●低炭素社会の構築に向けて、グループの環境方針を制定（オリックス）</li> <li>●セブン銀行と金融商品仲介で提携（オリックス証券）</li> <li>●タワーマンション隣接型有料老人ホーム「グッドタイム リビング 尼崎駅前」オープン（オリックス・リビング）</li> </ul>
	2008年11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>神戸に関西初のゴルフ練習場「OGMゴルフプラザ神戸」をオープン（オリックス・ゴルフ・マネジメント）</b></li> <li>●中古車販売事業でオートサーバーと提携（オリックス自動車）</li> <li>●全国の建設会社が保有する物件情報の更なる活性化へ向けた業務提携を締結（オリックス）</li> <li>●京都府庁周辺で「カーシェアリング導入可能性調査」を実施（オリックス自動車）</li> </ul>
	2008年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境配慮投資を支援する新会社「グリーン・リザーブ株式会社」を設立（オリックス）</li> <li>●「オリックスCFD」サービス開始（オリックス証券）</li> <li>●ファッションビジネス界のM&amp;A支援に特化した専門チームを新設（オリックスM&amp;Aソリューションズ）</li> <li>●試行的国内排出量取引制度に参加（オリックス、オリックス環境）</li> <li>●不動産業界初、Yahoo!ポイントと連携し、会員組織の入会時にポイント付与サービスを開始（オリックス不動産）</li> </ul>
第4四半期	2009年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「約定ごとコース」の現物株式取引手数料を大幅改定（オリックス証券）</li> <li>●ソリトンシステムズ社の人気ソフトウェアのレンタルを開始（オリックス・レントック）</li> <li>●満15歳未満の方を被保険者とする死亡保険契約取り扱い中止（オリックス生命）</li> <li>●ジェット証券の合併（オリックス証券）</li> </ul>
	2009年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●排出権販売のNES Japanを設立（オリックス）</li> <li>●株式会社大京とオリックス・ファシリティーズ株式会社との株式交換契約締結（オリックス）</li> <li>●自動販売機の電子マネー化の対応を進める企業へ出資（オリックス）</li> <li>●グループ外に向けて初のカーボンオフセット取り組み（オリックス環境）</li> </ul>
	2009年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>JR山手線全駅にカーシェアリング拠点を設置（オリックス自動車）</b></li> <li>●地上43階建免震タワーレジデンス『CHIBA CENTRAL TOWER』竣工（オリックス不動産）</li> <li>●水処理ESCO契約を第一工業製薬と締結（オリックス）</li> <li>●大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト、ナレッジキャピタル施設の運営法人を設立（オリックス不動産）</li> </ul>

## 老人ホーム併設型シニアレジデンス「芝浦アイランド」に誕生（オリックス・リビング）

オリックス・リビングは、2008年10月、高齢者向け賃貸住宅「プラテシア 芝浦アイランド」を、2008年11月には、同一建物内にシリーズ13棟目となる有料老人ホーム「グッドタイム リビング 芝浦アイランド」をオープンしました。

これらの物件は、「官・公・民」が一体となってサスティナブルな街づくりを推進する芝浦アイランドに立地し、クリニックモールやスーパーマーケットのほか、幼保一体化施設、児童高齢者交流施設、病児保育施設など、子育て世代からシニア世代まで、年齢や家族構成を問わず幅広い世代が暮らしやすい街となっています。

高齢者向け賃貸住宅「プラテシア 芝浦アイランド」(5~9階)は、コンシェルジュが24時間体制で勤務。居室内には、人の動きを検知する「生活サイクルセンサー」や「緊急呼出ボタン」を設置し、緊急時にはスタッフがすぐに対応できる体制を整えています。また、将来的に身体に不安が生じたときは下階の有料老人ホームに

移り住むことも可能です。

併設する「グッドタイム リビング 芝浦アイランド」(2~4階)は、港区で2施設目の介護付有料老人ホームとしてオープンしました。24時間の看護師常駐、隣接するクリニックによる訪問診療など、重介護度の方も安心して過ごすことができます。

『Generation Mix (世代間交流)』をコンセプトとしたサスティナブルな街『芝浦アイランド』において、オリックス・リビングはこれからのシニア世代に新しいライフスタイルを提供していきます。



## 神戸に関西初のゴルフ練習場「OGMゴルフプラザ神戸」をオープン（オリックス・ゴルフ・マネジメント）

2008年11月、オリックス・ゴルフ・マネジメント（以下OGM）は、関西エリアで初のゴルフ練習場『OGMゴルフプラザ神戸』をオープンしました。

OGMは、1986年からゴルフ場の再生運営事業に取り組んでいるオリックスグループのゴルフ場運営会社で、現在はゴルフ場38コース、ゴルフ練習場2ヶ所を手掛けています。接待志向コース・競技志向コース・カジュアルコースの3タイプで構成されたゴルフ場は、幅広い層のお客様にご好評いただいています。

『OGMゴルフプラザ神戸』は、神戸市で2番目に人口が多い北区に位置し、中国自動車道「神戸三田IC」や山陽自動車道「神戸JCT」から5km圏内とアクセスのよい立地にあります。3フロア全120打席には、オートティーアップなどの最新設備を備え、さらに160台の駐車場も完備しています。また、「ベテランゴルファーには満足。レディース・ジュニア・ビギナーには手軽さを。」のコン

セプトに基づき、233ヤードのロングフェアウェイにコースボールを使用し、300ヤード級のドライビングを実践できる施設となっているほか、クラブ工房を備えたプロショップでは専門スタッフによるクラブ診断なども行っています。レディース・ジュニア・ビギナーから熟練者の方まで、プロによる丁寧なレッスンやレベルに応じたスクールも開催するなど、これからもお客様が快適に充実した時間を過ごせるゴルフ場の運営に努めていきます。



## JR山手線全駅にカーシェアリング拠点を設置（オリックス自動車）

オリックス自動車は、都心部の交通渋滞の緩和や駐車場問題の解消、CO<sub>2</sub>削減による地球温暖化の防止などのために、公共交通とカーシェアリングの連携が有効な手段の1つと考えています。

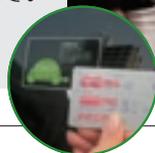
2009年2月の都営地下鉄浅草線10駅へのステーション設置に続き、2009年4月からJR山手線全29駅周辺にカーシェアリング拠点を設置し、鉄道との連携を強化しています。すでに2008年4月より貸出・返却時の鍵として100以上の公共交通手段で使える非接触ICカード『PASMO』を利用できる仕組みを採用。大きなターミナル駅を多く含むJR山手線各駅周辺にカーシェアリング拠点を設置したことで、飛躍的に利便性が向上すると考えています。

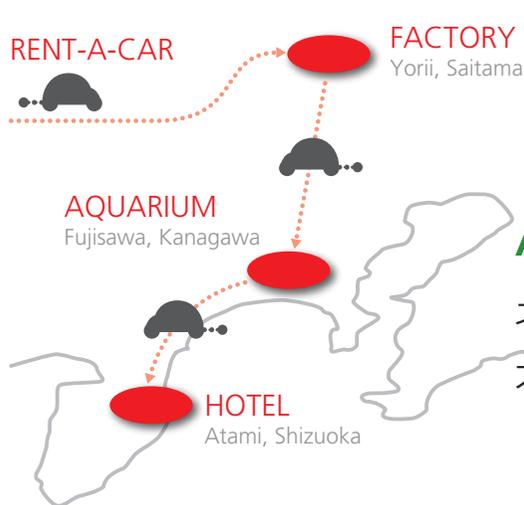
カーシェアリング先進国であるスイスでは、1枚のICカードで路面電車、バス、タクシー、カーシェアリングが利用できるようになっています。今回のステーション設置により「長距離間は電

車で移動し目的地付近でカーシェアリング車両を利用する」という欧州式の利用方法に近づき、移動時間の短縮、交通費の削減、さらにはCO<sub>2</sub>削減を図ることが可能となります。

また、将来は鉄道・バス・タクシーに次ぐ第四の公共交通手段となるよう、交通網の整備を目指しています。

今後も公共交通とカーシェアリングの事業連携を推進することで、お客様をはじめ、地域社会のニーズに応え、環境負荷低減に積極的に取り組んでいきます。





## A day with ORIX

ネッピー&リプシーがレンタカーで  
オリックスの施設をご案内します。

### 車を借りるなら「オリックスのレンタカー」!



オリックス自動車では、オリックスレンタカー、レンタカージャパレン、エックスレンタカーの3ブランドにて、人気のコンパクトカーから高級輸入車まで多様な車種ラインナップを取り揃え、お客様のあらゆるニーズに対応しています。2009年3月31日現在の店舗数は788カ所にのぼり、国内随一の営業ネットワークを誇っています。



●お問い合わせ先●

**オリックス自動車株式会社**

レンタカー予約センター Tel: 0120-30-5543

詳しくは、<http://car.orix.co.jp/>をご覧ください。



### エコにも一役「彩の国資源循環工場」を見学



埼玉県・寄居町にある「彩の国資源循環工場」は、廃棄物の適正処理とリサイクルの一層の促進を図る「資源循環モデル事業」として、県営の最終処分場、民間企業によるリサイクル施設、共同研究施設などで構成されています。オリックスは、その中核施設である「ゼロエミッション施設」を運営しており、廃棄物を道路の路盤材の原料となるスラグやメタルなどへリサイクルしています。1日の廃棄物処理能力は国内最大級となる450トンにのぼります。

●お問い合わせ先●

**オリックス資源循環株式会社 (寄居工場)**

〒369-1223 埼玉県大里郡寄居町大字三ヶ山313 Tel: 048-582-0871

詳しくは、<http://www.orix.co.jp/resource/>をご覧ください。



## 午後は「新江ノ島水族館」でわくわくドキドキ

「新江ノ島水族館」は、「わくわくドキドキ冒険水族館」をコンセプトに、楽しみながら学ぶことのできるエデュテイメント（エデュケーション＋エンターテインメント）型の水族館

です。相模湾の環境を再現した大水槽やイルカショースタジアムのほか、幻想的なクラゲファンタジーホール、海辺のデッキなど充実した施設を誇っています。本年は5周年を機に独自に「えのすいECO」を開始しました。

●お問い合わせ先●

### 新江ノ島水族館

〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸2-19-1 Tel: 0466-29-9960

詳しくは、<http://www.enosui.com/>をご覧ください。



相模湾大水槽



## 旅の最後は「ホテル ミクラス」でリラックス

「ホテル ミクラス」は、お客様が思い思いのスタイルでホテルライフを楽しめる趣向を凝らした全62室からなるスタイリッシュな温泉リゾートホテル。都心から「近すぎず・遠すぎない」最適なロケーションで、オリジナルのアロマトリートメントスパ、本格的フランス料理、素材にこだわったカフェなど、癒しと寛ぎを満喫できるサービスをご提供しています。

●お問い合わせ先●

### ホテル ミクラス

〒413-0012 静岡県熱海市東海岸町3-19 Tel: 0557-86-1111

詳しくは、<http://www.micuras.jp/>をご覧ください。



### ネッピー&リブシー

ネッピーは1991年、リブシーは1998年に誕生。球場のみならず、幼稚園や保育園、はたまた地域のコミュニティ活動にと大忙しの2人は、今ではすっかり子供達の人気者。これからも子供達とのふれあいを大切にして、オリックス・バファローズを盛り上げていこうとはりきっています。

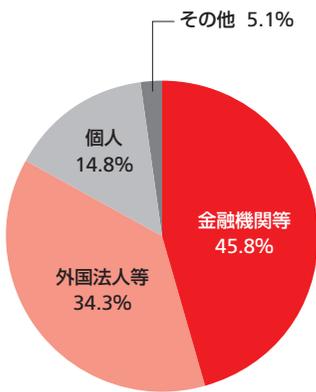
※ネッピー & リブシーは、オリックス・バファローズのオリジナルキャラクターです。

## 株式情報 (2009年3月31日現在)

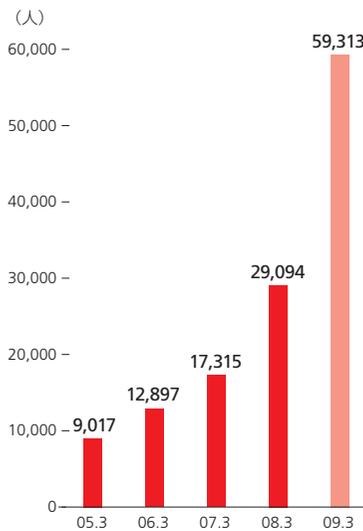
発行会社：オリックス株式会社  
 授權株式総数：259,000,000株  
 発行済株式総数：92,217,067株  
 株主総数：59,313名

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
 Tel: 0120-232-711  
 上場証券取引所：東京・大阪証券取引所 市場第1部 [8591]  
 ニューヨーク証券取引所 [IX]

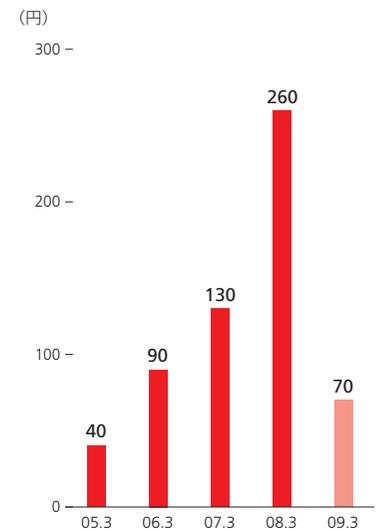
所有者別株主分布



株主数の推移



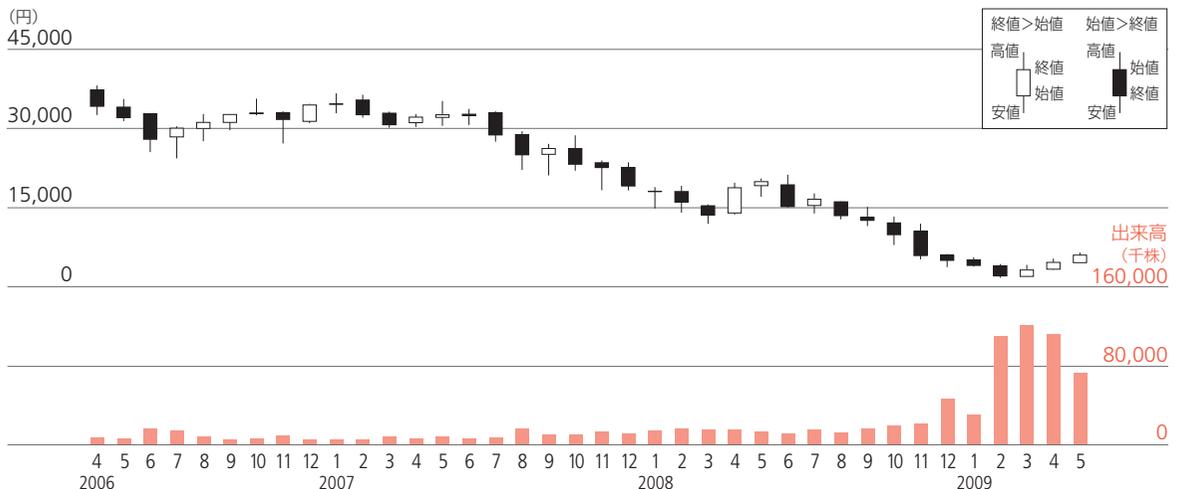
1株当たり配当金額の推移



※該当する決算期終了後の利益処分による配当金額です。

## 株価推移

(円)  
45,000



## 社債発行実績

	発行日 (払込日)	償還日	発行金額	期間	クーポンレート
第3回転換社債	2008.12.17	2014. 3.31	1,500億円	5年3ヶ月	1.00%
第126回	2008. 9.10	2010. 9.10	480億円	2年	2.03%
第125回	2008. 6.23	2011. 6.23	150億円	3年	2.45%
第124回	2008. 6.23	2010. 6.23	500億円	2年	2.27%
第123回	2008. 3.28	2010. 3.29	350億円	2年	1.84%
第122回	2008. 1.30	2010. 1.29	400億円	2年	1.33%
第121回	2007.11.28	2011.11.28	550億円	4年	1.64%
第120回	2007. 9.27	2010. 9.27	100億円	3年	1.50%
第119回	2007. 9. 5	2012. 9. 5	500億円	5年	1.79%
第118回	2007. 7.30	2014. 7.30	200億円	7年	2.18%
第117回	2007. 7.30	2011. 7.29	200億円	4年	6ML+0.19%
第116回	2007. 7.30	2011. 7.29	200億円	4年	1.77%
第115回	2007. 5.30	2012. 5.30	550億円	5年	1.63%
第114回	2007. 5.30	2011. 5.30	250億円	4年	1.51%
第113回	2007. 4.18	2017. 4.18	100億円	10年	2.19%
第112回	2007. 4.18	2011. 4.18	200億円	4年	6ML+0.22%

・本ページの記載の情報は、既発・新発を問わず当社社債への投資勧誘を目的とするものではありません。

## 投資家情報 : <http://www.orix.co.jp/ir/>

経営者からのメッセージ	最新年次報告書のCEOメッセージの抜粋をご覧ください。
オリックスとは	事業セグメントの説明や財務諸表の見方など投資対象としてのオリックスの概要を簡単にご紹介しています。
IRイベント	決算説明会などのスケジュールおよび過去の説明会の動画をご覧ください。
IR資料室	以下の各種資料をご覧ください。
アニュアルレポート	CEOメッセージ、事業概要・業績、財務情報などを記載した年次報告書です。
有価証券報告書等	直近の有価証券報告書をご覧ください。
US SEC Form 20-F (英文のみ)	米国証券取引委員会 (SEC) に提出している年次報告書です。
株主通信「悠」	個人株主・投資家の皆様へ向けたご報告です。
決算短信	四半期ごとの決算発表資料です。業績概要や財務諸表を記載しています。
補足資料	四半期ごとの決算発表である決算短信を補足するデータを記載しています。
株主総会関連資料	招集通知・事業報告・決議通知等の書類を掲載しています。
バックナンバー	各資料のバックナンバーを掲載しています。
最新決算資料	直近の決算関連資料をご覧ください。
財務情報	5年間の業績推移をご覧ください。
株式・社債情報	以下の各種資料をご覧ください。
株式情報	株式に関する基本情報と、各種データを掲載しています。
株価情報	大和総研株価表示サービス。最新の株価をご参照いただけます。
アナリスト一覧	オリックスをカバーしているアナリスト一覧を掲載しています。
社債情報	直近20回分の社債の実績情報を掲載しています。
格付情報	格付機関からの格付情報を掲載しています。
短期社債 (電子CP) 発行要項	個別の発行条件を除く基本的な情報を掲載しています。
役員情報	取締役・執行役・グループ執行役員をご紹介します。
よくあるご質問	株式、会社、決算・財務情報についてのQ&Aをご覧ください。
IR窓口	投資家情報についてのご意見・お問い合わせ先および印刷物の送付やニュースメールサービスへの登録についてのご案内です。

## 「平成20年度東証上場会社表彰 第14回ディスクロージャー表彰」を受賞

オリックスは、東京証券取引所より「平成20年度東証上場会社表彰 第14回ディスクロージャー表彰」を受賞しました。

東京証券取引所では、企業内容等を適時・適切に投資家に分かりやすく開示するなど、ディスクロージャーに積極的に取り組んでいる上場会社を、毎年1回表彰しています。

オリックスは、①決算短信で、経営成績が勘定項目別、セグメント別に詳細に分析され、財務諸表情報以外の定性的な情報が充実していること、②アニュアルレポートにおける経営成績の分析が充実していること、③ホームページで過去5年分の財務データや動画情報を提供し、英語のサイトを開設していることなどの点で高い評価を受けました。

オリックスはこれまで、当社の企業価値を適切にご評価いた

だくために、市場に対して説明責任を果たすとともに、経営の透明性を高め、公正かつ適時・適切な開示を行うことに努めてきました。また、近年は事業展開が多岐にわたっているため、セグメント情報の充実にも重点を置いています。

こうしたディスクロージャーの姿勢が、現在の厳しい市場環境において評価されたことを意義深いことと捉え、今後も現在の経営方針や将来のビジョンをお伝えするとともに、経営側にも株主・投資家の皆様の声を伝え、持続的な企業価値の向上に取り組んでいきます。



### アンケートご協力をお願い

アンケート実施期間：2009年7月20日（月）～8月18日（火）迄

アンケートURL：<https://www.net-research.jp/382019/>

オリックスでは、株主・投資家の皆様への情報開示の充実に努め、より一層ご理解いただけるIR活動を行っていきたいと考えています。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、上記URLのサイトにアクセスしていただき、アンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。

アンケートにご協力いただいた皆様のなかから、抽選で以下のプレゼントを差し上げます。

「オリックス・バファローズ お好きな選手のサインボール」（抽選で20名様）

「全国共通のQUOカード1,000円分」（抽選で100名様）

- \* プレゼントの発送は、2009年9月下旬を予定しています。
- \* 今回のアンケートは、(株)マクロミルが運営するWebアンケートシステムを利用しています。

この冊子の内容についてのご質問、また補足情報をご希望の方は下記までご連絡ください。

オリックス株式会社／経営計画室

〒108-0014 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル

TEL：03-5419-5041

FAX：03-5419-5901

URL：<http://www.orix.co.jp/ir/>